

今季の渡りダコの来遊は遅く、漁獲量は昨年を大きく下回る見込み

(令和4年漁期のマダコの来遊・漁況予測)

1. マダコの生態と茨城県での漁業

常磐海域のマダコは、春から初夏に外房周辺で生まれ、北上暖水によって宮城県仙台湾周辺までの広い範囲に分散して成長します。

茨城県では本県沿岸で成長した「地ダコ」と、本県より北で成長し産卵のために秋から冬にかけて外房へ向けて南下する「渡りダコ」が漁獲対象となっています。

本県では、12月から翌年2月頃までがマダコ漁のシーズンで、「たこつぼ漁」などで漁獲されます。特に鹿島の漁獲量が多く、鹿島灘で漁獲されたタコは「鹿島だこ」と称され、地域の特産品として知られています。

2. 昨年漁期の茨城県での漁模様

本県のマダコ漁の好不漁は「渡りダコ」の来遊状況に大きく影響され、過去20年間の盛漁期（12月～翌年2月）の漁獲量は12～225トンと大きく変動しています。

昨年盛漁期（R3年12月～R4年2月）の漁獲量は124トンで、これは過去20年間中8位の漁獲量となり、中漁といえる漁模様でした（図1）。

また、「たこつぼ漁」に着目すると、その漁獲量は117トンで過去20年間中6位（図1）、1日1隻あたりの漁獲量（CPUE）は120.2kg/日・隻で過去20年間中4位でした（図2）。

3. 今季のマダコ漁の予測

(1) 来遊時期と水温の関係

本県への「渡りダコ」の来遊は、秋～冬に親潮系冷水が三陸～常磐海域を南下することと関連しています。現在、親潮の面積は平年より小さく、親潮に連なる親潮系冷水は岩手県沖に位置しています。

本県における11月20日～30日の那珂湊定地水温は17.8～19.0℃で、過去30年（H3～R2年）の平均水温（15～16℃台）を上回っています（図3）。

また、10月下旬以降、本県沖合域で黒潮が接岸したことで、本県の142°E以西の表面水温も比較的高い状態（20～24℃）が継続しており（図4）、過去30年の表面平均水温（会瀬、18～20℃；大洗、18～20℃；鹿島、18～22℃；犬吠埼、19～22℃）を上回っています。

(2) 他県の漁模様

岩手県、宮城県、福島県における今季のマダコの漁獲量は低調となっています。この要因としては、「渡りダコ」幼生が北上回遊する春頃に親潮が強勢であり、「渡りダコ」が北上しにくい海況であったことが挙げられます。

(3) 今年の盛漁期の来遊・漁況予測

以上のことから、本県への「渡りダコ」の来遊は例年と比較して遅くなり、漁獲量も低調になると予測されるため、今季の漁獲量は昨年を大きく下回ると考えられます。

(回遊性資源部 小熊 進之介)

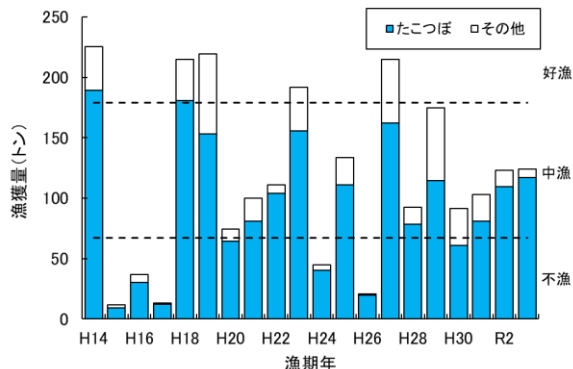


図1. 茨城県の盛漁期（12月～翌年2月）におけるマダコ漁獲量の経年変化（全漁法）。

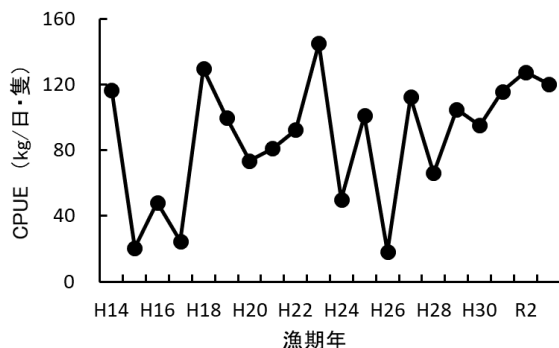


図2. 盛漁期（12月～翌年2月）におけるたこつぼ漁CPUEの経年変化。

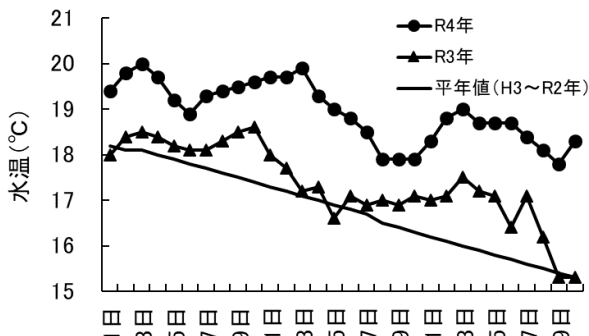


図3. R4年およびR3年の11月の那珂湊定地水温と平年値（H3～R2年）。

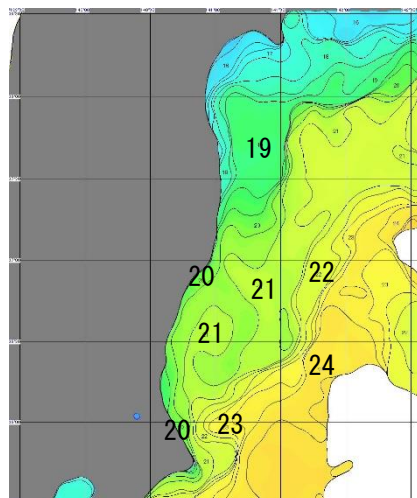


図4. 11月29日の海況（NOAA衛星表面水温）。

【次号予告】 R4.12.9.発行の「水産の窓」は、『令和4年のアワビの漁況』を予定しています。